

甲斐の国 水災・減災セミナー

近年、地球温暖化が原因と考えられる大型台風や局所的な集中豪雨が懸念され、洪水被害の危険性が高まっています。甲府盆地に残る災害との戦いの歴史、この教訓を現代に生かしましょう。

第一部 基調講演

山梨の風土に刻された災害の宿命 ～災害の世紀・防災・減災を考える～



講師：竹林 征三氏

工学博士、富士常葉大学 名誉教授、
山口大学 時間学研究所 客員教授

東日本大震災以降、過去になかった諸々の災害が次々起こり、日本列島は巨大災害の世紀に突入したと言われている。

日本列島は九つの災害の宿命を背おっている。山梨は四周山に囲まれた地であり、九つの災害の宿命が凝縮した地である。この地の先人は宿命と闘いこの地を切り開き誇り高い甲斐の国をつくった。風土には先人の知恵と労苦が各所に刻されている。先人の知恵の深さに敬意を表し、学び子孫に伝えていかなければならない。

第二部 セミナー



堤の原風景～南アルプス市の人々の命を守った堤防のはなし～

南アルプス市の歴史は、水との闘いの歴史だったことがわかっています。なかでも、戦国時代以降、釜無川の本流が、西へ西へと移り変わり、押し寄せるようになった川の水に、人々はどのように立ち向かってきたのか…。地域を守る堤防はどのようなもので、どのようにその堤防を守り、地域を守ってきたのか…。地域に残された古文書や絵図から読み解きます。

講師：田中 大輔氏

南アルプス市教育委員会文化財課副主幹



霞堤による減災のための保全

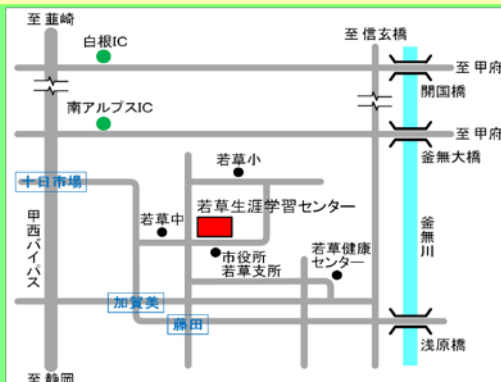
水害は堤防等により防ぐ必要があるが、破堤のような大水害を回避するには堤防以外の手段も考えておかなければならない。南アルプス市にある霞堤は上流で破堤氾濫した時に、下流の地域を守るすぐれた減災機能を有しており、この機能を生かしていく方法を考えていくことが重要である。

講師：末次 忠司氏

山梨大学大学院 医学工学総合研究部
附属国際流域環境研究センター 教授

日時：平成26年3月29日(土) 13:30～16:15
(受付13:00)

会場：「南アルプス市 わかくさホール」
若草生涯学習センター内(南アルプス市寺部)
入場無料, 事前申込不要



主催：甲府河川国道事務所
共催：山梨県、南アルプス市、山梨大学・国際流域環境研究センター